

資料①

令和6年度 第8次沖縄県医療計画 進捗評価会議
精神疾患分野 施策評価シート

令和7年11月6日
保健医療介護部 地域保健課

発症予防

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精C-101)精神疾患や精神障害への理解、相談窓口の周知						
精P-301	センター、保健所 相談件数	R3年度 16,289件	R3年度 16,289件	R4年度 19,752件	R5年度 20,689件	↑ R11年度 23,000件
(精C-102)相談後の精神科受診までの期間短縮のための相談窓口の対応力向上						
精P-302	センター、保健所の研修実施回数	R3年度 22回	R3年度 22回	R4年度 23回	R5年度 28回	↑ R11年度 25回
(精C-103)かかりつけ医と精神科医の連携のための研修、ゲートキーパー研修の開催						
糖P-303	開催回数	R4年度 18回	R4年度 18回	R5年度 10回	R6年度 18回	→ R11年度 20回
(精C-103)災害時の精神医療体制の整備						
糖P-318	災害拠点精神科病院の整備件数	R4年度 2機関	R4年度 2機関	R6年度 2機関	R4年度 2機関	→ R11年度 2機関以上
(精C-104)災害派遣精神医療チーム(DPAT)の整備						
糖P-319	DPAT先遣隊 保有機関数	R4年度 3機関	R4年度 3機関	R5年度 3機関	R6年度 3機関	→ R11年度 3機関以上

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精B-101)予防、治療のアクセスが確保されている						
精O-201	精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↑ R11年度 60,000人

個別施策

精神疾患や精神障害への理解、相談窓口の周知

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
センター、保健所 相談件数	保健所及び総合精神保健福祉センターにおける相談等	毎年度	保健所 総合精神保健福祉センター	地域保健課	-	-	保健所、総合精神保健福祉センターにおいて、20,689人の相談があった。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム								
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標		
精P-301	センター、保健所 相談件数	R3年度 16,289件	R3年度 16,289件	R4年度 19,752件	R5年度 20,689件	↑	R11年度 23,000件	精O-201	精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↑	R11年度 60,000人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・相談から治療や自助グループに繋がった事案もあった。 ・第7次計画から継続して採用されている指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	-	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・総合精神保健福祉センター、保健所において、保健師を中心に相談を行った。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは向上した。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・相談から治療に繋がった事案もあり、中間アウトカムの向上に寄与した。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	・引き続き施策を継続。	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
支援者養成研修	各保健所・総合精神保健福祉センターによる支援者研修	毎年度	保健所 総合精神保健福祉センター	地域保健課	-	-	総合精神保健福祉センター、保健所で支援者向け28回の研修を実施した。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム								
指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
精P-302	センター、保健所の研修実施回数	R3年度 22回	R3年度 22回	R4年度 23回	R5年度 28回	↗	R11年度 25回	精O-201	精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↗	R11年度 60,000人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・第7次計画から継続して採用されている指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・計画どおり研修を実施できた	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは向上した。 ・支援者研修実施により相談体制の強化が図られ、受診に繋がったと考える。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を実施。	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

かかりつけ医と精神科医の連携のための研修、ゲートキーパー研修の開催回数

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度 ^{SEP} 決算額(千円)	令和7年度 ^{SEP} 予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
かかりつけ医等心の健康対応力向上研修、ゲートキーパー研修の開催	内科医等一般かかりつけ医に対して適切なうち病棟精神疾患に関する診療の知識・技術及び精神科等専門の医師との連携方法、家族からの話や悩みを聞く姿勢等を習得させるための研修	毎年度	地域保健課 総合精神保健福祉センター	地域保健課	373	458	前年度と比較し、研修実施回数が10回から18回と増加した。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-303 開催回数	R4年度 18回	R4年度 18回	R5年度 10回	R6年度 18回	→	R11年度 20回	精O-201 精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↗	R11年度 60,000人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・第7次計画から継続して採用している指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・前年度と比較して研修会数が増加している。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは向上した。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・内科医等一般かかりつけ医が精神疾患に関する診療の知識・技術及び精神科等専門の医師との連携方法、家族からの話や悩みを聞く姿勢等を習得させるための研修受講することで精神科外来受診が増加に寄与したと考える。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

災害時の精神医療体制の整備

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
災害拠点精神科病院の整備件数	災害拠点精神科病院の整備件数	毎年度	県	地域保健課	-	-	2機関(現状維持) ※R8年度に1医療機関整備予定

効果

初期アウトカム							中間アウトカム								
指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-318	災害拠点精神科病院の整備件数	R4年度 2機関	R4年度 2機関	R6年度 2機関	R4年度 2機関	→	R11年度 2機関以上	精O-201	精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↗	R11年度 60,000人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・第7次計画から継続して採用されている指標である。 ・施策とアウトカムの繋がりがない。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	R8年度に新たに1医療機関を整備予定	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・災害拠点病院を整備することで災害時にも安心して外来受診が可能になると考える。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	施策は続けるべきだが、施策と中間アウトカムのつながりがなく、独立して施策、中間アウトカムを設定する。	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

災害派遣精神医療チーム(DPAT)の整備

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
DPAT先遣隊の保有機関数	DPAT先遣隊の保有機関数	毎年度	県	地域保健課	3,786	5,977	3機関(現状維持) ※R8年度に1機関整備予定

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-319	DPAT先遣隊保有機関数	R4年度 3機関	R4年度 3機関	R5年度 3機関	R6年度 3機関	→ R11年度 3機関以上	精O-201	精神疾患外来患者数	R2年度 48,536人	R2年度 48,536人	R3年度 50,543人	R4年度 52,703人	↗ R11年度 60,000人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・第7次計画から継続して採用されている指標である。 ・施策とアウトカムの繋がりが弱い。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇔施策の繋がりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・取組記載の決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・R8年度に1機関整備予定	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・DPAT先遣隊を保有することで災害時の急性期精神科医療ニーズへの対応等の役割を担うことが可能となる。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	施策は続けるべきだが、施策と中間アウトカムの繋がりが弱いいため、独立して施策、中間アウトカムを設定する。	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

地域移行の推進、定着

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精C-201) 治療抵抗性統合失調症治療薬が普及されている						
糖P-304	統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率	R2年度 2.04%	R2年度 2.04%	R3年度 2.16%	R4年度 2.35%	↑ R11年度 3%
(精C-202) 地域における在宅看護の整備						
糖P-305	精神科訪問看護・指導料を算定している又は精神科訪問看護基本療養費の届出を行っている施設	R2年度 78力所	R2年度 78力所	R3年度 83力所	R4年度 86力所	↑ R11年度 117力所
(精C-203) 救急医療体制との連絡会議の開催						
糖P-305	救急医療体制と精神科救急医療体制の連絡会議の開催	R4年度 1回	R4年度 1回	R5年度 1回	R6年度 1回	→ R6年度 1回以上

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精B-102) 地域における在宅患者の支援						
精O-202	精神科訪問看護指導料又は精神科訪問看護指示料を算定した患者数	R2年度 4,073人	R2年度 4,073人	R3年度 4,220人	R4年度 4,599人	↑ R11年度 6,109人
精O-203	精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数	R1年度 324.7日	R1年度 324.7日	R2年度 321.8日	R3年度 327.4日	↑ R8年度 325.3日

個別施策

治療抵抗性統合失調症治療薬が普及されている

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率	治療抵抗性統合失調症治療薬の更なる使用率向上	毎年度	医療機関	—	—	—	治療薬の使用率が向上している。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム							
指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-304	統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率	R2年度 2.04%	R2年度 2.04%	R3年度 2.16%	R4年度 2.35%	↑	精O-202	精神科訪問看護指導料又は精神科訪問看護指示料を算定した患者数	R2年度 4,073人	R2年度 4,073人	R3年度 4,220人	R4年度 4,599人	↑	R11年度 6,109人
							精O-203	精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数	R1年度 324.7日	R1年度 324.7日	R2年度 321.8日	R3年度 327.4日	↑	R8年度 325.3日

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・第7次計画から継続して採用されている指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇔施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・治療薬の使用率は向上しているが、引き続き経緯を見守る必要がある。	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは全てにおいて向上している。 ・治療薬を使用することで地域での平均生活日数が増加したと考えられる。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

地域における在宅看護の整備

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
精神科訪問看護・指導料を算定している又は精神科訪問看護基本療養費の届出を行っている施設	地域移行が推進、定着するよう在宅看護を推進	毎年度	医療機関	—	—	—	訪問看護施設が増加し、訪問看護利用者が増加している。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-305 精神科訪問看護・指導料を算定している又は精神科訪問看護基本療養費の届出を行っている施設	R2年度 78カ所	R2年度 78カ所	R3年度 83カ所	R4年度 86カ所	↑	R11年度 117カ所	精O-202 精神科訪問看護指導料又は精神科訪問看護指示料を算定した患者数	R2年度 4,073人	R2年度 4,073人	R3年度 4,220人	R4年度 4,599人	↑	R11年度 6,109人
							精O-203 精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数	R1年度 324.7日	R1年度 324.7日	R2年度 321.8日	R3年度 327.4日	↑	R8年度 325.3日

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・訪問看護施設件数については、第8次計画から新たに追加した指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・訪問看護事業所が増加するのは望ましいが、質の維持も重要である。	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは全てにおいて向上している。 ・訪問看護施設が増加することで訪問看護利用者、地域生活日数が増加したと考えられる。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	施策は継続だが、訪問看護の質についても注視していく	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

救急医療体制との連絡会議の開催

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
救急医療体制と精神科救急医療体制の連絡会議の開催	県内における精神科救急医療体制の整備	毎年度	県	医療政策課	—	—	精神科救急と一般救急の困難事例等を共有し、連携を確認することができた。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
糖P-305 救急医療体制と精神科救急医療体制の連絡会議の開催	R4年度 1回	R4年度 1回	R5年度 1回	R6年度 1回	→	R11年度 1回以上	精O-202 精神科訪問看護指導料又は精神科訪問看護指示料を算定した患者数	R2年度 4,073人	R2年度 4,073人	R3年度 4,220人	R4年度 4,599人	↗	R11年度 6,109人
							精O-203 精神科病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数	R1年度 324.7日	R1年度 324.7日	R2年度 321.8日	R3年度 327.4日	↗	R8年度 325.3日

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・精神科救急体制を整備することで地域において安心して生活することができる。 ・第7次計画から継続して採用されている指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇔施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・年に一度の会議を計画どおり行った。	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標		
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは全てにおいて向上している。 ・精神科救急と一般救急の困難事例等を共有し、連携を確認することができた。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

依存症の相談、支援体制の構築

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精C-301)地域における依存症関連問題等相談拠点の整備						
精P-307	保健所・センターにおける依存症関連問題等相談件数(再掲)	R3年度 2,019件	R3年度 2,019件	R4年度 2,537件	R5年度 2,112件	R11年度 2,527件
(精C-302)依存症等の治療体制の拠点となる専門医療機関の整備						
精P-308	依存症の治療体制の拠点となる専門医療機関の整備数	R4年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	R3年度 アルコール2か所 薬物1か所 ギャンブル1か所	R4年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	R5年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	R11年度 アルコール4か所 薬物3か所 ギャンブル3か所

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精B-103)依存症の相談、支援体制が構築されている						
精O-204	依存症等受療者数 (アルコール、薬物、ギャンブル)	R2年度 3,395人	R2年度 3,395人	R3年度 4,977人	R4年度 5,009人	R11年度 4,413人

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
保健所・センターにおける依存症関連問題等相談件数	県における依存症の相談拠点体制の整備	毎年度	県	地域保健課	12,892	14,530	依存症相談から精神科受診に繋がったと考えられる。

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
精P-307 保健所・センターにおける依存症関連問題等相談件数(再掲)	R3年度 2,019件	R3年度 2,019件	R4年度 2,537件	R5年度 2,112件	↑	R11年度 2,527件	精O-204 依存症等受療者数(アルコール、薬物、ギャンブル)	R2年度 3,395人	R2年度 3,395人	R3年度 4,977人	R4年度 5,009人	↑	R11年度 4,413人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・ロジックモデルに整合性はある。 ・依存症問題相談件数については、第8次計画から新たに追加した指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・取組記載にある決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・センター、保健所において精神福祉相談として実施している。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・R7.3月にギャンブル等依存症対策推進計画を策定した。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・中間アウトカムは向上している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	・依存症相談から精神科受診に繋がったと考えられる。	
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

依存症等の治療体制の拠点となる専門医療機関の整備

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
依存症の治療体制の拠点となる専門医療機関の整備数	県における依存症の医療提供体制の整備	毎年度	県	地域保健課	12,892	14,530	現状維持 (アルコール3機関、薬物2機関、ギャンブル2機関)

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
精P-308 依存症の治療体制の拠点となる専門医療機関の整備数	R4年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	R3年度 アルコール2か所 薬物1か所 ギャンブル1か所	R4年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	R5年度 アルコール3か所 薬物2か所 ギャンブル2か所	↑	R11年度 アルコール4か所 薬物3か所 ギャンブル3か所	精O-204 依存症等受療者数 (アルコール、薬物、ギャンブル)	R2年度 3,395人	R2年度 3,395人	R3年度 4,977人	R4年度 5,009人	↑	R11年度 4,413人

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・第7次計画から継続して採用されている指標である。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算ノート	・取組記載にある決算額のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング		
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・国の実施する依存症支援者研修を各精神科病院に周知し、新たな選専門医療機関整備に向けて医療機関へ働きかける	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング		
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・専門医療機関が整備されることにより依存症患者の早期発見、早期回復が見込まれると考えられる。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

認知症の相談、支援体制の構築

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精C-401)認知症サポーターの養成						
精P-309	認知症サポーターの養成数	R4年度 114,868人	R4年度 114,868人	R5年度 122,134人	R6年度 131,733人	↑ R8年度 145,000人
(精C-402)認知症サポート医養成						
精P-310	認知症サポート医養成数	R4年度 155人	R4年度 155人	R5年度 169人	R6年度 178人	↑ R8年度 220人
(精C-403)「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の実施						
精P-311	かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数	R4年度 590人	R4年度 590人	R5年度 590人	R6年度 590人	→ R8年度 700人
(精C-404)「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」の実施						
精P-312	「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」の実施	R4年度 1,132人	R4年度 1,132人	R5年度 1,132人	R6年度 1,253人	↑ R8年度 1,280人
(精C-405)「歯科医師認知症対応力向上研修」の実施						
精P-313	歯科医師認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 178人	R4年度 178人	R5年度 203人	R6年度 223人	↑ R8年度 260人
(精C-406)「薬剤師認知症対応力向上研修修了」の実施						
精P-314	薬剤師認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 708人	R4年度 708人	R5年度 786人	R6年度 838人	↑ R8年度 940人
(精C-407)看護職員認知症対応力向上研修の実施						
精P-315	看護職員認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 347人	R4年度 347人	R5年度 410人	R6年度 482人	↑ R8年度 560人
(精C-408)「病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修」						
精P-316	病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 0人	R4年度 0人	R5年度 0人	R6年度 99人	↑ R8年度 150人
(精C-408)認知症疾患医療センターの整備の推進						
精P-317	認知症疾患医療センター指定数	R5年度 7か所	R4年度 7か所	R5年度 7か所	R6年度 7か所	→ R8年度 7か所

指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(精B-205)認知症の相談、支援体制が構築されている						
精O-205	認知症受療者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 80.0%	↑ R11年度 78.0%

個別施策

認知症サポーターの養成数

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
認知症キャラバンメイト養成研修の開催	認知症サポーター養成講座の企画・立案及び実施を行うキャラバン・メイトを養成するとともに、地域や職域において認知症の人と家族を支える認知症サポーターを養成。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	106	362	(R6年度) 認知症サポーター数：131,733人

効果

初期アウトカム							中間アウトカム							
	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	
認知症サポーターの養成数	R4年度 114,868人	R4年度 114,868人	R5年度 122,134	R6年度 131,733	↗	R8年度 145,000人	▶	認知症受療者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・R6年度は103名のキャラバンメイトを養成。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・キャラバンメイトの増加がサポーター養成数の増加につながる。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・認知症サポーター養成数の増加が、認知症になっても地域での生活継続できることに効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

認知症サポート医の養成数

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
認知症サポート医養成事業	認知症サポート医を養成するための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	700	1,000	(R6年度) 研修修了者: 9人 (累計: 178人)

効果

初期アウトカム

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
認知症サポート医養成数	R4年度 155人	R4年度 155人	R5年度 169	R6年度 178	↗	R8年度 220人

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
認知症患者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇔施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は9名がサポート医養成研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・累計で178人のサポーター医を養成している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・認知症サポート医を養成することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続(他の研修と統合して実施できないか要検討)	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
かかりつけ医認知症対応力向上研修事業	かかりつけ医が、認知症の人への支援体制を構築するための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	0	1,200	(R6年度) 研修事業受託可能な機関との都合がつかず未実施 (累計: 590人)

効果

初期アウトカム							中間アウトカム						
	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数	R4年度 590人	R4年度 590人	R5年度 590	R6年度 590	→	R8年度 700人	認知症患者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は研修事業受託可能な機関との都合がつかず未実施。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・R6年度は未実施	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・かかりつけ医の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られ、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続(他の研修と統合して実施できないか要検討)	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修の実施

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修事業	病院勤務の医療従事者が、認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図るための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	1,146	600	(R6年度) 研修修了者: 121人 (累計: 1,253人)

※決算額は「病院勤務以外の看護師等医療従事者向け認知症対応力向上研修事業」の決算額との合計額

効果	初期アウトカム							中間アウトカム						
	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標		
病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 1,132人	R4年度 1,132人	R5年度 1,132	R6年度 1,253	↗	R8年度 1,280人	認知症患者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%	

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は121名研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・累計で1,253人の方が研修を修了している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・病院勤務医療従事者の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見		A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
歯科医師認知症対応力向上研修事業	歯科医師が、認知症の人への支援体制を構築するための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	629	629	(R6年度) 研修修了者: 20人 (累計: 223人)

効果

初期アウトカム

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
歯科医師認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 178人	R4年度 178人	R5年度 203	R6年度 223	↗	R8年度 260人



	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
認知症受療者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は20名研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・累計で223人の方が研修を修了している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・歯科医師の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

薬剤師認知症対応力向上研修の実施

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
薬剤師認知症対応力向上研修事業	薬剤師が、認知症の人への支援体制を構築するための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	285	510	(R6年度) 研修修了者: 52人 (累計: 838人)

効果

初期アウトカム

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
薬剤師認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 708人	R4年度 708人	R5年度 786	R6年度 838	↗	R8年度 940人

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
認知症患者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は52名研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・累計で838人の方が研修を修了している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・薬剤師の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
看護職員認知症対応力向上研修事業	看護職員が、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制の構築するための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	1,130	1,200	(R6年度) 研修修了者: 72人 (累計: 482人)

効果

初期アウトカム

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
看護職員認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 347人	R4年度 347人	R5年度 410	R5年度 482	↗	R8年度 560人

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
認知症受療者数のうち外来患者数の割合	R2年度 79.5%	R1年度 79.9%	R2年度 79.5%	R3年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・令和6年度は72名研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・累計で482人の方が研修を修了している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・看護師の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき

個別施策

病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修の実施

取組	事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額(千円)	令和7年度予算額(千円)	実績・成果(アウトプット)
	病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修事業	病院勤務以外の医療従事者が、地域における認知症の人への支援体制構築の担い手となるための研修を委託により実施。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	1,146	1,000	(R6年度) 研修修了者: 99人 (累計: 99人)

※決算額は「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修事業」の決算額との合計額

効果	初期アウトカム						中間アウトカム						
	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	
病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修修了生数	R4年度 0人	R4年度 0人	R5年度 0人	R6年度 99人	→	R8年度 150人	認知症患者数のうち外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価	評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果(事務局案)	判定
	整合性(セオリー)評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか	・いいとこ取りロジックモデル	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。
分野・中間アウトカムの指標は適切か			・他府県ロジックモデルとの比較			
分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			・協議会・部会での審議			
実行(プロセス)評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算(決算)書	関係者ヒアリング	・取組記載の予算(決算)のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	関係者ヒアリング	・令和6年度は99名研修を受講。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	関係者ヒアリング	・累計で99人の方が研修を修了している。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果(インパクト)評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	アウトカム指標	・診療所、訪問看護ステーション、介護事業所等に勤務する医療従事者の認知症対応力が向上することで、認知症の人や家族への支援体制構築が図られており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値	関係者ヒアリング		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき	

取組

事業名称	実施内容	実施期間	実施主体	所管課	令和6年度決算額 (千円)	令和7年度予算額 (千円)	実績・成果 (アウトプット)
認知症疾患医療センター運営事業	認知症の的確な診断と行動・心理症状や身体合併症への対応及び認知症患者や認知症の疑いのある患者に対する適切な医療や介護、地域ケア等の総合的な支援を行う。	毎年度	県	地域包括ケア推進課	37,486	39,826	(R6年度) ・認知症疾患医療センター指定数：7箇所 ・専門医療相談（電話・面接・訪問等）件数：10,817件 ・外来対応件数：14,693件

効果

初期アウトカム

中間アウトカム

	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	
認知症疾患医療センター指定数	R5年度 7か所	R4年度 7か所	R5年度 7か所	R6年度 7か所	→	R8年度 7か所		認知症受療者数のうち 外来患者数の割合	R2年度 77.0%	R2年度 77.0%	R3年度 79.6%	R4年度 79.6%	↗	R11年度 78.0%

評価

評価軸	評価ポイント	具体的な評価ポイント	情報源	評価結果（事務局案）	判定
整合性（セオリー）評価	ロジックモデルの左右のつながりに、論理的整合性があるか	分野・中間アウトカムは適切か	・いいとこ取りロジックモデル ・他府県ロジックモデルとの比較 ・協議会・部会での審議	・中間アウトカムの増加に寄与している施策であり、ロジックモデルに整合性はある。	A 十分に満たされている B かなり満たされている C ある程度満たされていない D 大幅に満たされていない
		分野・中間アウトカムの指標は適切か			
		分野・中間アウトカム⇄施策のつながりが強いのか			
実行（プロセス）評価	決めたことをきちんとやっているか	資源は用意されたか	予算（決算）書	・取組記載の予算（決算）のとおり	A 予定通り実行されている B ほぼ実行されている C 一部実施されている D 実施されていない
		施策は実施されたか、進捗はどうか	関係者ヒアリング	・7箇所のセンターを指定し、認知症に関する相談や外来受診への対応を行っている。	
		アウトプットが生まれているか	アウトプット指標	・専門医療相談数及び外来対応件数のとおり。	
		施策関係者はどう感じているか	関係者ヒアリング	・事業の継続実施。	
効果（インパクト）評価	やったことが効いているのか	アウトカムは向上したか	アウトカム指標	・認知症疾患医療センターを全二次医療圏域で設置することで、認知症に関する適切な医療提供体制を構築しており、地域での生活継続に効果があると評価している。	A とても効果を出している B 効果を出している C あまり効果を出していない D 効果を出していない
		アウトプット指標値とアウトカム指標値の関係は	アウトカムとアウトプットの指標値		
		外部要因の影響は	関係者ヒアリング		
総合評価	この施策をやり続けるべきか	上記3評価を踏まえての評価	協議会・部会審議での主な意見	引き続き施策を継続	A 強化すべき B 維持すべき C 検討を続けるべき D 中止を検討すべき E 中止すべき